

ファッション流行情報:2008年春夏傾向

2008 SPRING & SUMMER FASHION POINT

1) 2008年全体傾向

景気回復が進展する一方で、実感できない好況感や深まる格差階層社会など不安を抱かせる要因も出現しています。そのため安心や信頼感を基盤とした「伝統的なもの」と新たな未来を模索する「革新的なもの」という相反する要素が両立するシーズンとなります。この「対比的な概念の組合せ」には、懐古的な洗い晒しのナチュラル感と未来的な機能を持つスポーティ感を組合せたもの。様々な民族性や伝承文化を都会感覚で昇華したもの。ラグジュアリーなセレクト感覚とジャンク(廃品)の意外な遊び感覚などを融合させたものなどがあります。

2) 色彩

色相は、ナチュラル感の暖色が減少。モダンな中性色のピンクやパープル、グリーン。寒色系のブルー、バイオレットなどが増加傾向。

色調は、使い勝手の良いモデレートからグレイッシュ、無彩色系が増加。

配色は、有彩色をグレイや黒の無彩色で押さえ込むトーン・コントラスト配色。色調差の少ないソフトな曖昧さを持つフォカマイユ配色など。

3) 柄

統一的な柄使いから、明確な柄と曖昧なもの、異質な柄域の凝った組合せなど、「~らしい」表現から「~らしくない」斬新さが求められる。

植物や生物を用いた柄域では、点描のように極小化したり、パネル柄のように巨大化した柄

の混在。また抽象的にアレンジしたり幾何学的に表現したもの。壁紙調や単純なカントリー調など。

伝承的なエスニックやフォークロア、プリミティブな柄域は、都会的なロゴやグラフィカル感覚などを用い都会的な表現で一新。ストライプ、チェック、ドットなどが効果的に用いられる。

4) 素材

軽さとひねりのある意外性の演出素材。

天然材と化合織の融合で新しい可能性を追求。

見た目と触感が異なるもの(表面のフラット感に対し手触りに微妙な引っ掛かりを感じるラバー効果やコーティング処理)。プリミティブなラフ表現(ジャンクの効果)に宝石のような光沢感を付加し都会的に処理したもの。レトロ的な装飾素材にスポーティな機能プロテクターを付加したもの。

5) スタイリング

重ね着から単品をスマートに着こなす方向へ。

アクセサリや小物雑貨の効果的な使用。

ベーシックなものとの遊び感覚のバランス。

伝承的なおいを意識的に残しながら、新たなモノ作りの発想を活性化させていく。コーディネート技術を用いた提案。

・下記の写真は2008年春夏のイメージです。

事業化支援部 <墨田支所>

嶋 明 TEL 03-3624-3732

E-mail:shima.akira@iri-tokyo.jp

2008年春夏のイメージ



TIRI News

2007年5月号 通巻13号

発行日/平成19年4月30日(毎月1回発行)

発行/地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター

総務部 情報システム課 広報係

〒115-8586 東京都北区西が丘3-13-10 TEL 03-3909-2151 内275

企画・印刷/秀研社印刷株式会社

(転載・複製をする場合は、情報システム課広報係までご連絡下さい。)

この印刷物は石版系印刷を含まない
インクを使用しています。
2100
古紙率40%以上の再生紙を使用しています。